

御池通界わい 今昔マップ

千本通～堀川通界わい編



地域を巡っていた京電

このマップについて

御池通沿道のマップづくりワークショップ

御池通界わいの大切にしたいもの、楽しい思い出、地域の誇り、身近な歴史など、御池通の魅力や地域の誇りを伝えるマップづくりを目指して、平成16年12月からワークショップを開催しました。ワークショップには、現在この界わいに住んでおられる方だけでなく、かつて住んでおられた方や、沿道の事業者の方など約50名にご参加いただきました。

界わいごとのテーマ

このマップは、御池通を3つに分け、それぞれの区間ごとに設けた班で意見を交わしながら制作しました。そして、班ごとに交わされた意見をもとに、今後の御池通の発展や、これまでの記憶として必要であろうと考えられる項目を各班ごとに整理し、ひとつの記録誌としてまとめました。



- 町名の由来
- 地名の名所
- 地域の家
- 昔の御池通周辺
- 町名の由来
- 地域の史跡
- 井戸
- 昔の御池通周辺
- 町名の由来
- 地域の史跡
- 柳池
- 昔の寺町通周辺

御池通界わい今昔マップ

【発行】都市計画局都市企画部都市づくり推進課
電話(075)222-3503
http://www.city.kyoto.jp/lokal/todu/index.htm
平成17年12月20日発行 京都市印刷物第174320号



御池通の概要

通り名の由来

現在の二条城から三条通の辺りまであった神泉苑の中に御池と呼ばれる池があり、その池に通じていた道であることから、江戸時代の中期に御池通と呼ばれるようになったと考えられています。当時は、絹問屋や刀関係の職人が集まる活気のある通りであったといわれています。

近代の御池通

第二次世界大戦末期の昭和20年に御池通の鴨川西岸から堀川通までの民家に対して、空襲からの類焼防止策のため強制疎開が実施されました。御池通が強制疎開の対象として選ばれた理由は、戦前に拡張整備が行なわれていた丸太町通、四条通の間に類焼防止帯を設けると考えに基づいたものでした。



強制疎開後の御池通（烏丸御池から西を望む）

終戦後の御池通

昭和22(1947)年に幅員50メートルの都市計画道路として活用することが定められ、事業の完了以降、京都の市内幹線道路として機能し、沿道には業務系の高層の建築などが建ち並びました。昭和30年代には、祇園祭の見物客増加に伴い、山鉦巡行ルートが広幅員の御池通に変更され、祇園祭・時代祭の巡行ルートとなるなど、京都の『はれ』の道として親しまれてきました。



近年の御池通

京都市では、鴨川から堀川通間の御池通を京都のシンボルロードとしてふさわしい道路とするため、平成9年から15年に街路整備事業を実施し、更に、にぎわいの創出と景観形成に向けた取組を検討するため、平成14年10月に地元住民、沿道事業者、商工会議所、学識経験者及び行政で構成する「御池沿道関係者協議会」を設置して議論を重ね、平成16年8月にシンボルロード活性化のための具体的な目標と実現化の方策をまとめました。現在は、これに基づき、それぞれの役割分担によって具体的な取組を進めています。

御池通の位置

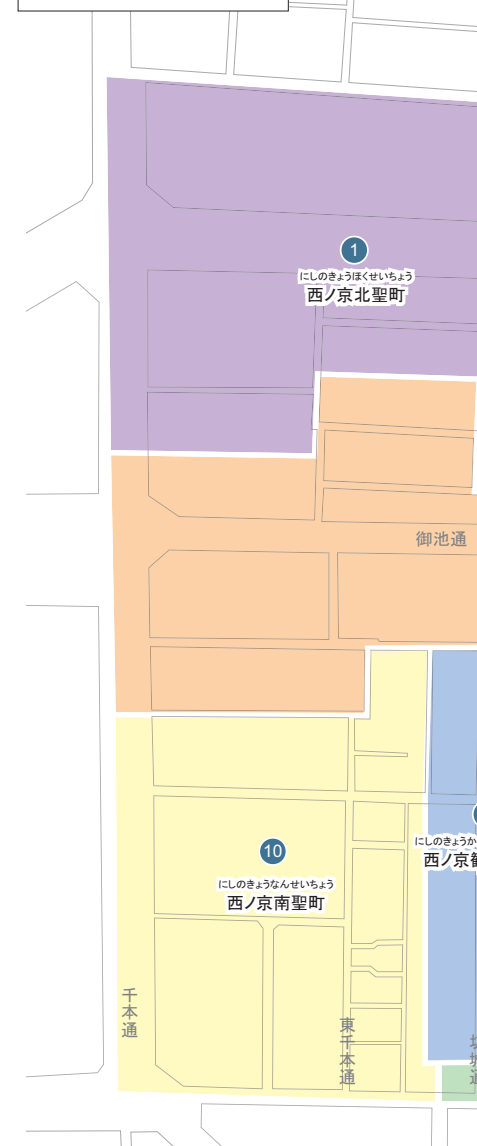


御池通界わいの町名由来

※押小路通から姉小路通を含む町名を掲載しました。現在の町内会と名称や範囲が違う町もあります。

参考文献

- 1) 京都市町名変遷史 (京都市町名変遷史研究所)
- 2) 二条城下町マップ



- 10 西ノ京南聖町
- 11 西ノ京勸学院町
- 12 西ノ京池ノ内町
- 13 神泉苑町

「西ノ京」が付く町は、昔は京都の市外でした。

昔は神泉苑の西の櫛笥通を境に市内と市外に分かれており、市外は葛野郡西ノ京村と呼ばれ、田畑が広がっていました。町名に西ノ京が付いているのはその名残です。江戸時代には、二条城を中心に所司代、奉行所、千本屋敷、若洲屋敷、与力、同心屋敷等が並び官庁街となりました。東西町奉行所が置かれ、各奉行所には与力20名、同心50名が置かれていました。

資料提供：京都市歴史資料館

町名の由来を調べてみると、そこから地域の歴史やゆかりが見えてきます。その由来に関係した建物や石碑なども残っていることがわかりました。あなたがお住まいの町名やご存知の町名はありますか？

●京都市の通りと町

- 1 西ノ京北聖町
- 2 西ノ京職司町
- 3 西ノ京池ノ内町
- 4 西ノ京南聖町
- 5 市之町
- 6 市之町
- 7 織物屋町
- 8 最上町
- 9 池元町
- 10 西ノ京南聖町
- 11 西ノ京勸学院町
- 12 西ノ京池ノ内町
- 13 神泉苑町
- 14 姉西町
- 15 三坊大宮町
- 16 大文字町
- 17 倉本町
- 18 三坊猪熊町北組
- 19 三坊猪熊町南組
- 20 上巴町
- 21 西三坊堀川町

- 10 西ノ京南聖町
- 11 西ノ京勸学院町
- 12 西ノ京池ノ内町
- 13 神泉苑町

●平安時代の文教地区

この辺りには、桓武天皇が設けた官吏養成の教育機関である大学寮がありました。大学寮の周辺には、大学寮学生のための寄宿舎と学習施設を兼ねた大学別荘がつけられました。藤原氏が開いたのが勸学院、和氣氏が開いたのが弘文院です。少し南には在原氏の実学院もありました。

資料提供：京都市歴史資料館

- 14 姉西町
- 15 三坊大宮町
- 16 大文字町
- 17 倉本町
- 18 三坊猪熊町北組
- 19 上巴町
- 20 梅屋町
- 21 西三坊堀川町

●昔は上京区と下京区でした。

かつては三条通を境に上京区と下京区に分かれていたため、御池通周辺は上京区でした。ただし、西ノ京村は下京区に属していました。昭和4年4月、上京区の南部と下京区の北部を区域として中京区が誕生し、御池通周辺は中京区となりました。現在も当時の町名看板が何枚か残っています。

資料提供：京都市歴史資料館

- 14 姉西町
- 15 三坊大宮町
- 16 大文字町
- 17 倉本町
- 18 三坊猪熊町北組
- 19 上巴町
- 20 梅屋町
- 21 西三坊堀川町

●道路上の町

西三坊堀川町は堀川通にあって、町のほとんどが道路の上です。わずかに中京区役所、中京消防署にかかっていますが、誰も住んでいません。堀川通でも御池通同様、第二次大戦中に強制疎開が行われたため、このような町が生まれる結果となりました。隣接する町に合併されたりせず、今も町名が残っています。

資料提供：京都市歴史資料館